

平成三十年度

一般社団法人

東京能楽囃子予定番組
定式協議会

国立能楽堂

渋谷区千駄ヶ谷四一八
一〇三（三四二三）一三三一

◎ 東京能樂囃子科協議会定式能 三月昼能

三月十三日（第二水曜日）

午後十二時三十分

開場

※（正午より研修能舞台にて体験教室（公演チケットをお持ちの方のみ）午前十時三十分受付申込開始定員四十名事前申込制）

観世流
《舞囃子》

弓八幡

谷本健吾

飯柿富原孔明

坂伊鈴長内藤嘉輝

講師大安大川田貴典良雄由曾姥高浦野和田理伊喜紗彭夫人

観世流
熊野

村雨留 観世喜正

鳥亀山井直洋也佑

坂伊鈴長 藤木山嘉啓桂 真太郎

栗林祐輔 大狩内塩島野田津輝了成圭久一信介

喜多流
経政

佐々木多門

大山倉容子

内瀬慶三

観世流
弓八幡

谷本健吾

飯柿富原孔明

坂伊鈴長内藤嘉輝

《舞囃子》

弓八幡

谷本健吾

飯柿富原孔明

坂伊鈴長内藤嘉輝



羽衣

宝生流
佐野

附

大藏流
狂言

宝生流

是界

喜多流

烏頭

和野久月

登野口能弘

大藏教義

野月

長島

莊太郎聰

休憩十五分

大藏基誠

聰

茂

澤田内佐辰巳

住駒大倉基慶乃助

大藏吉次郎

森内田

住佃駒

宏司能宜大二郎

大倉吉次郎

吉次郎

貴史幸

充良彦

水上内辰巳

小倉梶谷英樹

吉次郎

辰巳和磨

大狩内田成信

崇優生滿次郎

小野寺龍一

和磨

辰巳和磨

大狩内田成信

終演予定

午後四時五十分

【十二月辰能】

解説 宮本圭造

能「鷺」

神泉苑に行幸した延喜の帝(ツレ)が池の洲崎に立つ鷺(シテ)に興味を持ち、捕らえるよう家臣の蔵人(ワキ)に命じます。岩間の陰から忍び寄つて鷺を狙う蔵人。ところが、鷺は驚いて、ぱっと飛び上がってしまいます。蔵人がとつさに「わが君の勅諭であるぞ」と呼びかけると、それを聞いた鷺がまた元の場所へと戻ってきて大人しく蔵人に捕えられるので、人々は「これぞ帝の威光の有り難さよ」と感心するのでした。帝も大いに喜び、蔵人に五位の位を授けるだけでなく、鷺にも五位を与えることにします。さも嬉しそうに舞い遊ぶ鷺。やがて解き放られ、どこへともなく飛んでいくのでした。

『平家物語』に見える鷺の逸話を見たまま舞台化したような作品。この逸話は、五位鷺の名の由来譚とも言うべきものですが、五位鷺が青い羽色であるのに対し、能『鷺』では白くめの扮装で登場します。むしろ白鷺のイメージが投影されていると言えるでしょう。その鷺のシテは、少年や還暦を過ぎた役者が勤めることになっています。今回は、協議会会員のうち六名が還暦を迎えるのを記念し、『石橋』と合わせての上演となります。

狂言「栗焼」

主人が貰つてきた四十個の栗を客人に振る舞うため、焼栗にせよと命じられた太郎冠者。台所の囲炉裏で栗を焼き始めますが、一つ二つと味見するうちに・・・。

半能「石橋」連獅子

入唐した寂昭法師が清涼山を訪れ、苔むした石橋の前に立つと、文殊菩薩の使いである獅子が厳かに姿を現します。獅子は頭を振り、台に飛び乗り、また飛び降りるなどして、牡丹とたわむれるように激しく舞い、千秋万歳の御代を祝福して舞納めるのでした。

獅子舞を見せ場とする能。古来重い習事とされ、戦国期に一時伝承が途絶えていましたが、江戸初期に復活され、現在は各流で演じられています。獅子はシテ一人で演じるのが本来ですが、他にも二人獅子、四人獅子などの形があり、「連獅子」の小書が付く今回も、紅白から成る二匹の獅子が華麗な舞の競演を見せます。作り物の一畠台の置き所などにも様々なヴァリエーションがあり、そのあたりも注目して御覧ください。

【三月辰能】

解説 宮本圭造

狂言「附子」

主人が所用のため外出することになり、太郎冠者と次郎冠者に留守を申しつけます。主人は葛桶を持ち出し、この中には猛毒の附子が入っているから留守の間しっかりと番をするよう命じますが、太郎冠者は桶の中身が気になつて仕方がありません。次郎冠者が止めるのも聞かず、中を覗く太郎冠者。さて、その中身は・・・。

能「羽衣」盤渉

駿河国三保の松原の漁師白龍(ワキ)が浦の景色を眺めていると、空から音楽が聞こえ、妙なる香りが漂ってきます。これはただごとではないと驚く白龍。松の枝に美しい衣が掛かっているのを見つけ、近寄ってみると、かつて見たこともないような色香妙なる衣なので、家の宝にと持ち帰ろうとします。これを見咎めた天人(シテ)が、それは私の羽衣だから返すよう言いますが、白龍はますます羽衣を重宝し、国の宝とすると言つて全く返そうとしません。羽衣がなくては空にも飛べないと嘆く天人。ただ涙に暮れるその哀れな姿を見て、白龍もやがて心を動かされ、「天人の舞樂」をここで舞ってくれたならば羽衣を返そうと言います。羽衣を受け取った天人は軽やかに舞い、そのまま空高く帰っていくのでした。

天人の羽衣伝説は各地に伝えられていますが、その多くが、天女と人間の男との結婚という展開をとるのに対し、能『羽衣』では、天人の舞樂を見せる点に主眼が置かれているのが特徴です。能『羽衣』と同様の天女舞伝承は、世阿弥の伝書『却來華』にも「駿河舞の書、是又、駿河の有度浜に天女天降りたりし来歴也(中略)其時の天の羽衣の袖、駿河の清見寺に留まりて、今にありと云ふ」と見え、あるいは、このような舞の起源伝承が元となつて、能が作られているのかも知れません。

『羽衣』の第一の見どころは、何と言つても天人が舞う優美な舞です。「序ノ舞」「破ノ舞」と続けて二つも舞が舞われる時は珍しいと言えます。「盤渉」の小書がつくと、その舞の調子が通常より高い盤渉調になり、最後の場面も、シテが幕に入るのをワキが見送る形(ワキ留)になるなど、型に変化が付けられます。

チケット料金

(税込・1枚価格)

		一般				学 生
		A 席		B 席		(GB自由席)
		前売り	当日	前売り	当日	前売り・当日共
夜公演	6月13日	¥8,000	¥9,000	¥6,000	¥7,000	¥2,500
	9月12日					
昼公演	12月12日	¥11,000	¥12,000	¥9,000	¥10,000	¥2,500
	3月13日	¥6,000	¥7,000	¥5,000	¥6,000	

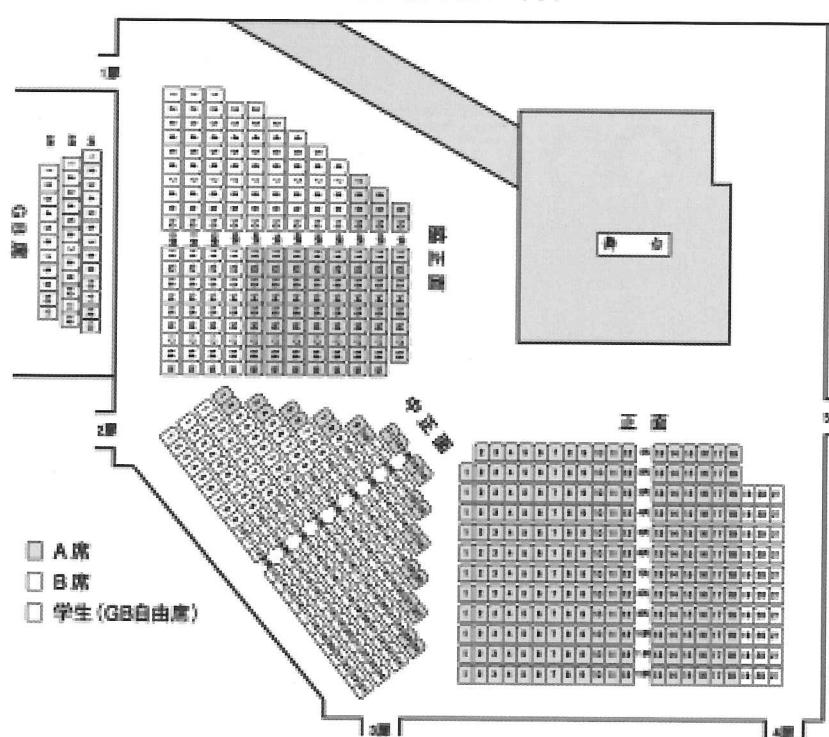
※全席指定（学生券を除く）になります。

※学生券：公演当日に受付にて学生証をご提示下さい。

※チケットのお申し込みは各公演の3ヶ月前の1日10時より受付いたします。

（6月公演は3月1日、9月公演は6月1日、12月公演は9月1日、3月公演は12月1日）

国立能楽堂 座席表



【お申込み】

◇ 東京能楽囃子科協議会オンラインチケットサービス
<http://nohgaku-hayashika.com/>

◇ 観劇サイト「カンフェティ」チケットセンター
<http://confetti-web.com>



【お問合せ】

●一般社団法人 東京能楽囃子科協議会

☎ 03-6804-3114

mail hayasika.kyougikai@gmail.com

HP <http://nohgaku-hayashika.com/>

☎ 0120-240-540 (平日10時～17時)

◇ 国立能楽堂

☎ 03-3423-1331